

質問：

INCA および MDA における LAB ファイルの有効範囲を教えてください。
LAB ファイルのユースケースはどのようになっていますか。

回答：

LAB ファイルは INCA* (V7.2) または MDA** (V7.2) で作成し、INCA***で使用することができます。

*	a) Calibration Data Manager (CDM)内 b) INCA 実験内 c) データベースマネージャ内
**	d) MDA のすべての信号を含む e) 単一の表示ウィンドウのすべての信号を含む
***	f) Calibration Data Manager (CDM)内 g) INCA 実験内 h) データベースマネージャ内

LAB ファイルとは

LAB ファイルには変数リストが含まれています。これらのリストを使用して、オブジェクトの選択、オブジェクトのフィルタリング、選択したオブジェクトの転送（追加のエクスペリメント、適合シナリオ設定など）を実施できます。ファイルの拡張子は.lab となります。lab ファイルには、V1.0、V1.1、V1.2 の 3 種類があります（詳細は、「追加情報」の章を参照）。

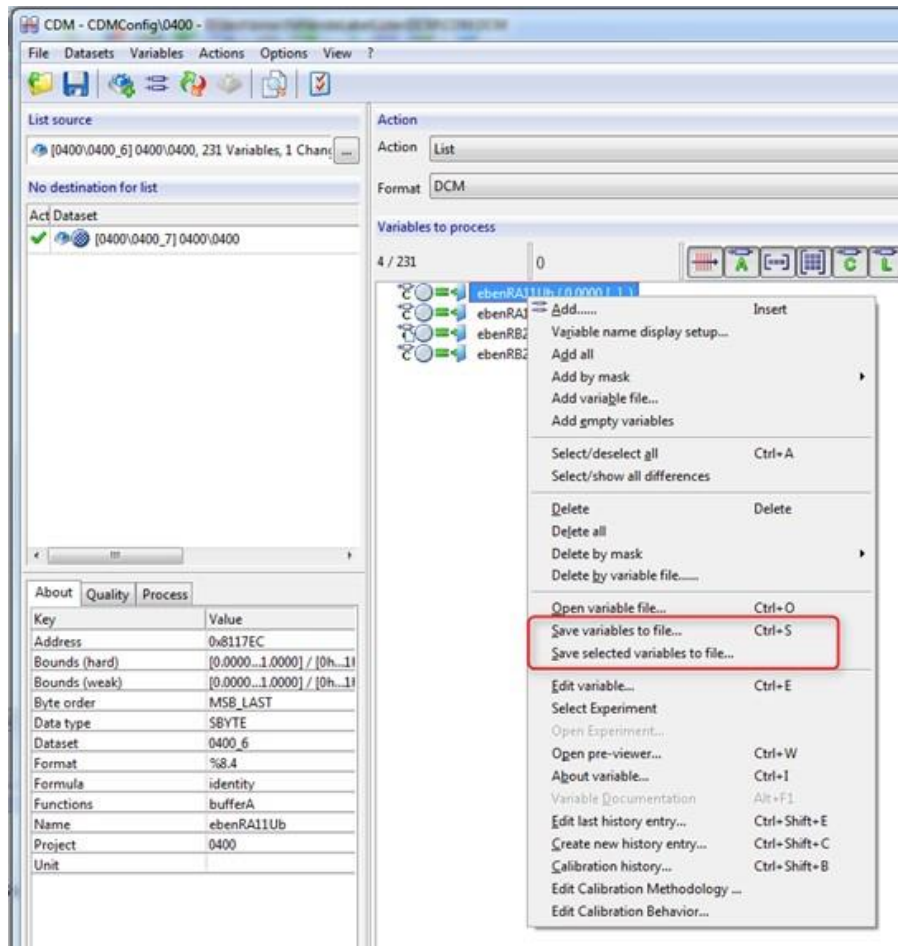
キー変数リストとは

INCA は、記録されるすべての信号が含まれたキー変数リストをサポートしており、ランク順やラスタ情報など、ASAP2 の機能／グループごとに信号を選択／除外できます。キー変数リストは INCA プロジェクト（ASAP2 ファイル）に基づいて生成され、ユーザーがエクスポートや編集を行うことも可能です。

a) Calibration Data Manager での LAB ファイルの作成

Calibration Data Manager では、以下のように LAB ファイルを生成することができます。

選択リスト内：（「処理される変数とファンクション」）：



アクションを実行すると、関連するすべての「結果」に対して個別の LAB（V1.0）ファイルが生成されます。

生成された LAB ファイル（V1.0）は、それぞれの赤いアイコンをクリックすることにより、簡単にアクセスできます。

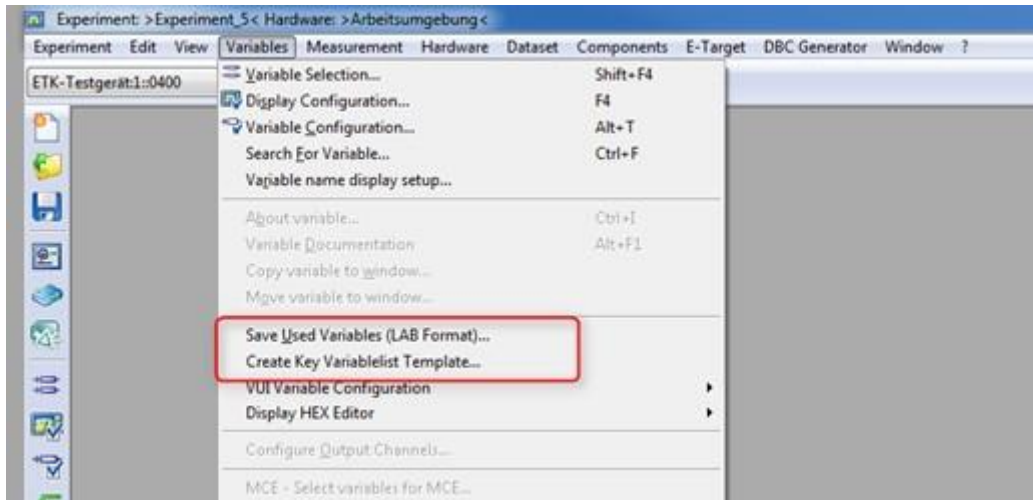


b) INCA 実験での LAB ファイルの作成

ドロップダウンメニューには、すべての計測変数と適合変数が含まれた単一の LAB ファイルを作成できる 2 つのオプションがあります。

[すべての変数をラベルファイルに保存]-> バージョン V1.0 または V1.1

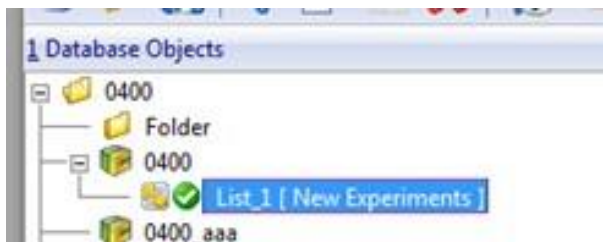
[キー変数リストのテンプレートを作成..]-> バージョン V1.2



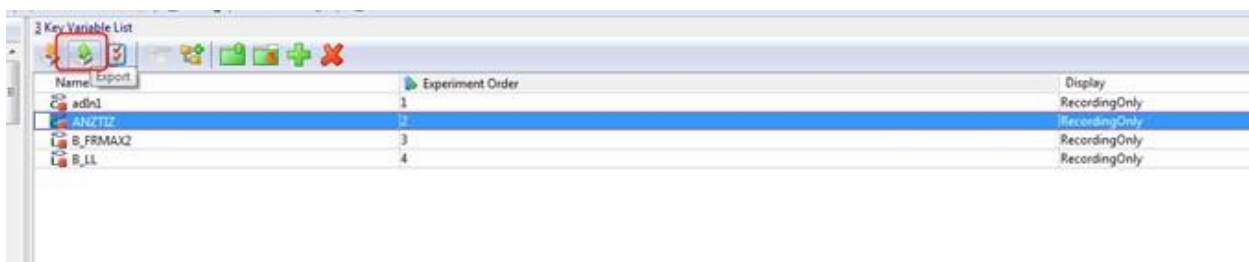
c) データベースマネージャでの LAB ファイルの作成

以下のように、既存のキー変数リストで LAB ファイルを作成できます。

- キー変数リストを選択します。

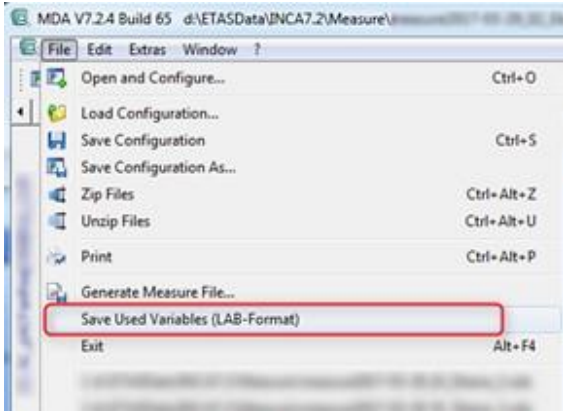


- [Export]ボタンをクリックします。



d) MDA での LAB ファイルの作成 (MDA 内の信号をすべて含める場合)

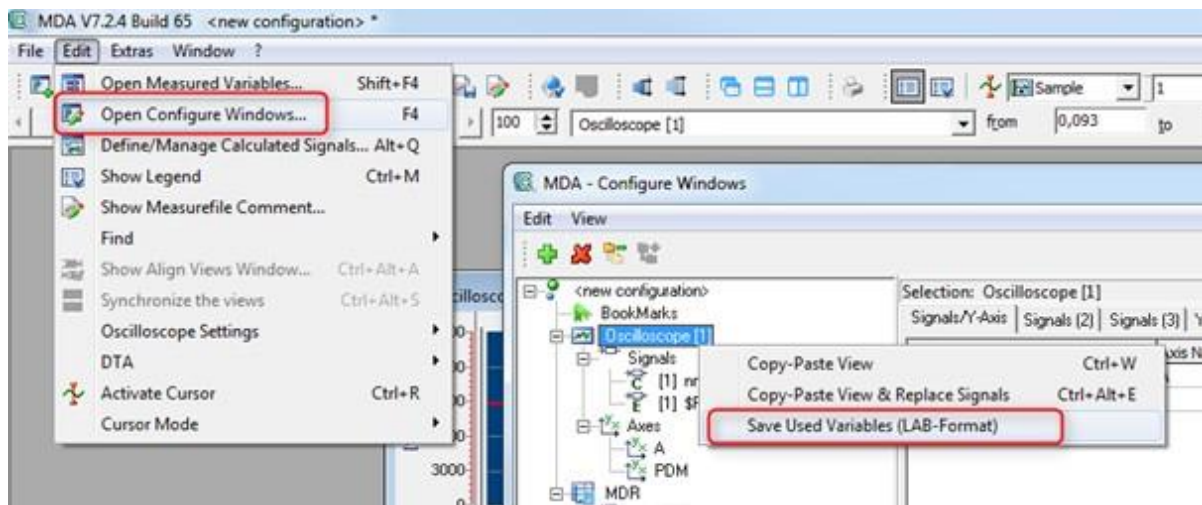
メニューの[File] -> [Save Used Variables (LAB-Format)]により、ラスタ情報を含む、設定のすべての計測信号を LAB ファイルに保存できます。



e) MDA での LAB ファイルの作成（単一の表示ウィンドウの信号をすべて含める場合）

メニューの[編集] -> [ウィンドウの設定...]により、ラスタ情報を含む、個々の表示ウィンドウの信号を LAB ファイルに保存できます。

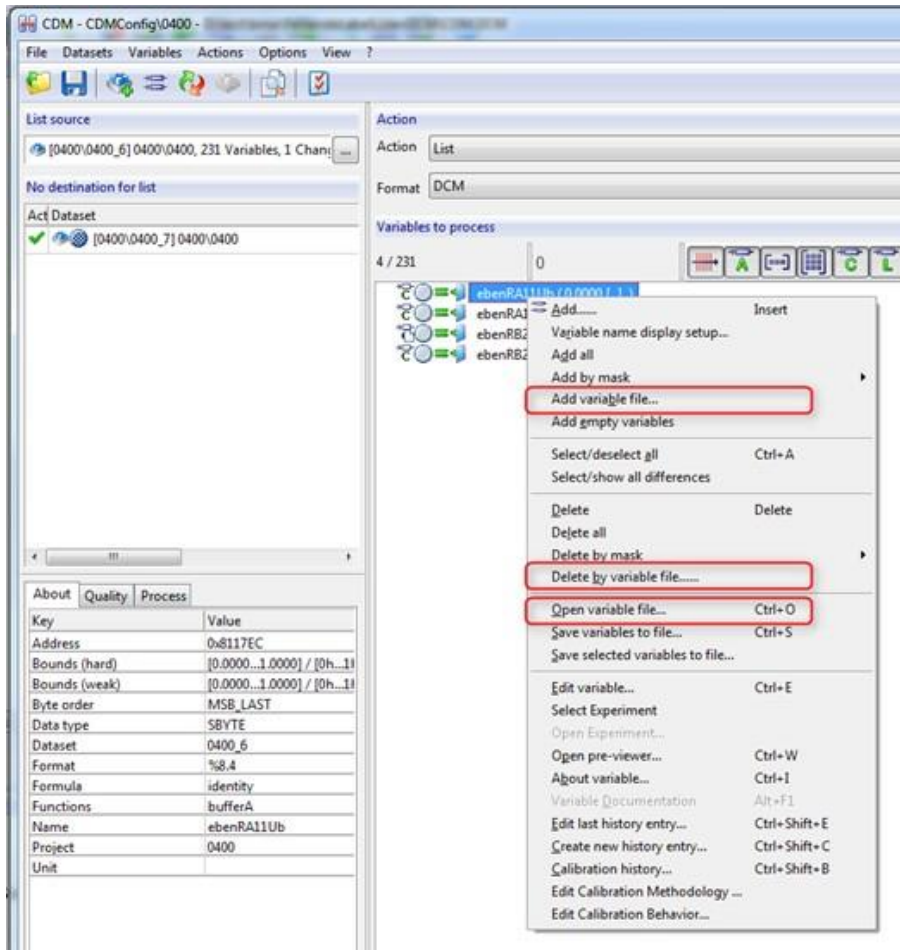
LAB ファイルを作成する特定の表示ウィンドウ（ソースウィンドウ）を右クリックし、[使用されている変数を LAB フォーマットで保存]を選択します。



f) Calibration Data Manager における LAB ファイルの使用

CDM セクションの「処理される変数とファンクション」では、コンテキストメニュー（マウスの右クリック）から次の方法で LAB ファイルを導入できます。

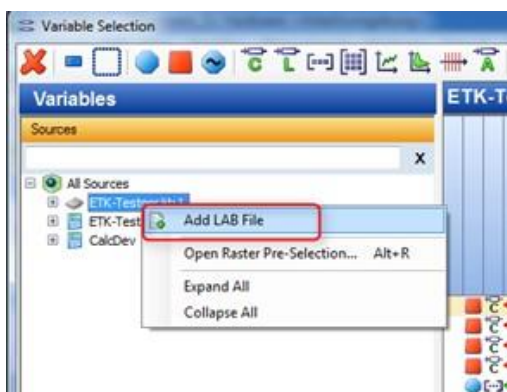
- LAB ファイルから既存の変数選択に一連の変数を追加：[変数をファイルから追加...]
- LAB ファイルで定義されている変数を削除：[ファイルを使用して削除...]
- 定義されている変数を選択（既存の変数リストは削除されます）：[ラベルファイルを開く...]



g) INCA エクスペリメントの Variable Selection ダイアログにおける LAB ファイルの使用

変数選択ダイアログ (VSD) では、LAB ファイルをフィルタとして使用することができます。

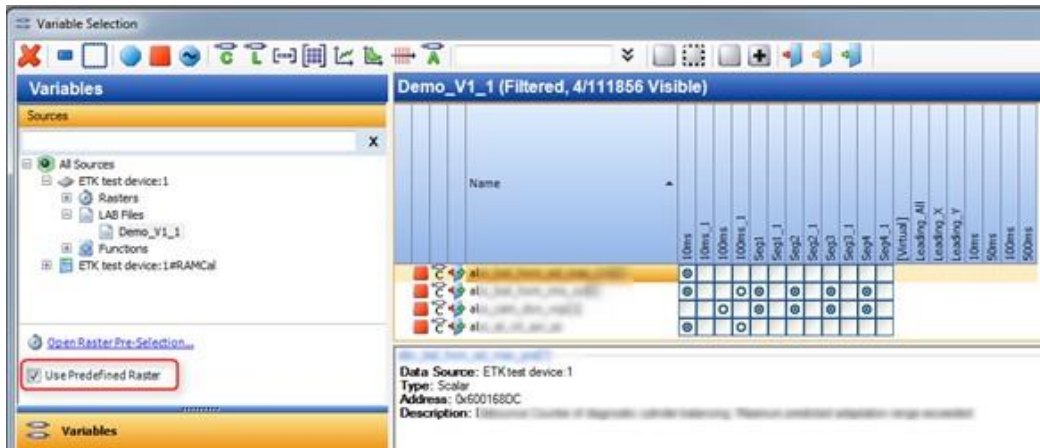
ソースデバイスを強調表示すると、コンテキストメニューの「ラベルファイルの追加」から LAB ファイルを割り当てることができます。



LAB ファイル V1.1 では、信号のラスタ情報がサポートされており、変数選択ダイアログに表示されます。

[デフォルトラスタを使用]オプションが有効になっており、かつ変数が選択されている場合は、(A2L ファイルで定義されている) デフォルトのラスタが使用されます。

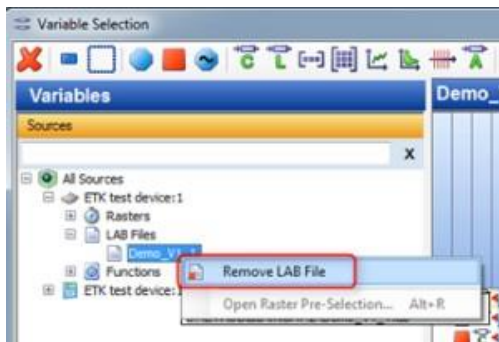
[デフォルトラスタを使用]オプションが有効でない場合は、LAB ファイルのラスタが使用されます。



- あらかじめ定義されている A2L のラスタ ([デフォルトラスタを使用]が有効な場合)
- あらかじめ定義されている LAB ファイルのラスタ

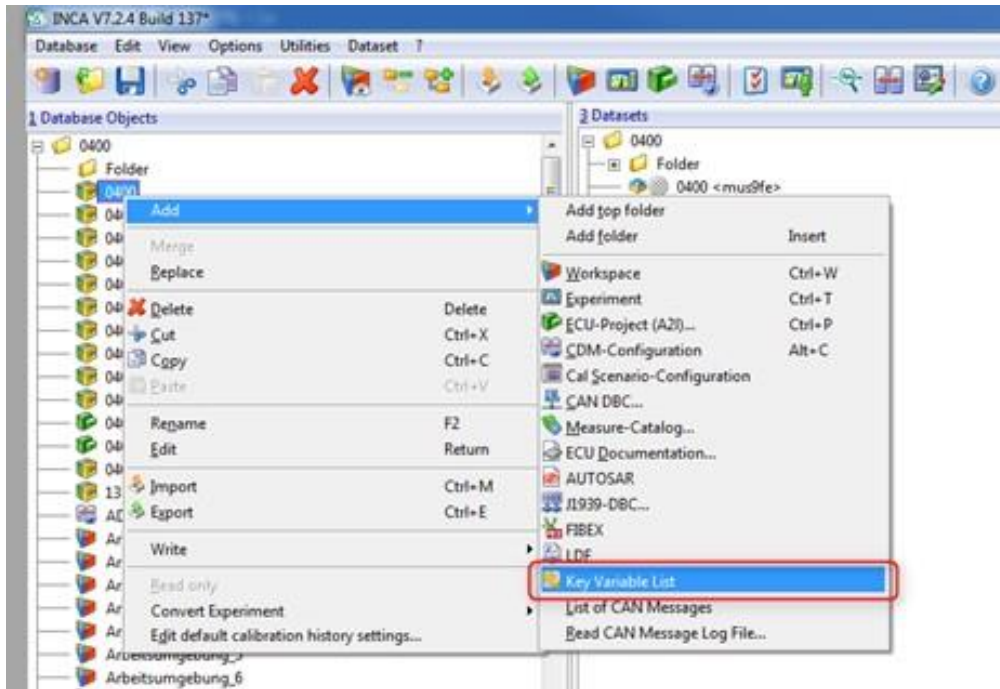
変数選択ダイアログからの LAB ファイルの削除 :

マウスを右クリックし、[ラベルファイルの削除]を選択します。

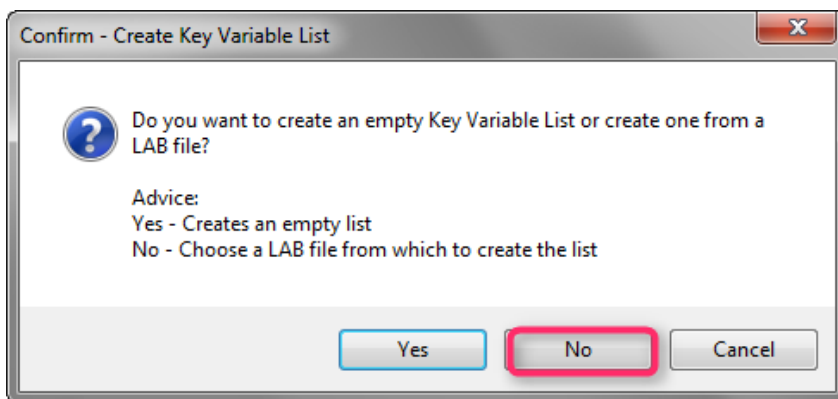


h データベースマネージャにおける LAB ファイルの使用

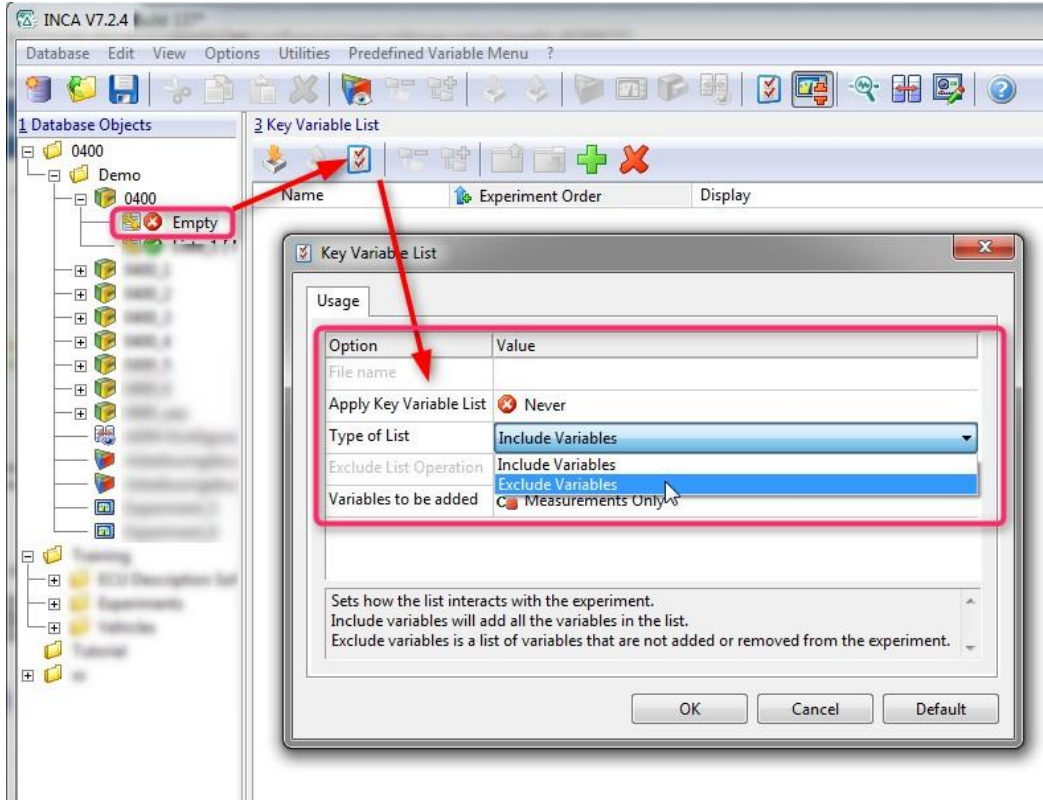
コンテキストメニューの[キー変数リスト]オプションを選択することにより、ラベルリストを使用できます。データベースマネージャでプロジェクトを強調表示すると、コンテキストメニューから既存または新規（空）のキー変数リストを追加できます。



既存の LAB ファイルを追加するには、[いいえ]をクリックして関連するダイアログウィンドウで LAB ファイルを選択します。



空の LAB ファイルを設定するには、[はい]をクリックして[プロパティ]ボタンでユーสケースを定義します。



追加情報 :

LAB 形式の説明

カラーコード :

black (黒) :	V1.0
blue (青)	V1.1
blue + red (赤)	V1.2

信号の構成

名前	;	ラスタ	;	表示状態	;	実験のランク順	;	コメント
Signal1	;	Zyl1&Zyl2&Zyl3&Zyl4	;	Display	;	1	;	コメント

例 :-----
[SETTINGS]

Version;V1.1 (V1.2)

MultiRasterSeparator;&

[RAMCELL]

Signal1; Zyl1&Zyl2&Zyl3&Zyl4 ; Display ; 1 ;Comment

Signal2; 100ms ; Display ; 2

Signal3; 1000ms ; RecordingOnly ; 3

Signal4; 100ms ; Display ; 4

Signal5; 10ms ; Display ; 5

Signal6;; ; Comment

[Label]

Map1; singleShot ; Display ; 6

Curve1; singleShot ; Display ; 7

Curve2; singleShotOnly ; RecordingOnly ; 8

[Function]

Func_ABC;;1

Func_XYZ;;2

[Groups]
-----**参照情報 :**

- [INCA 7.2 オンラインヘルプ] (F1) -> [検索] -> 「lab」を検索
- [MDA 7.2 オンラインヘルプ] (F1) -> 「lab」を検索
- C:¥ETAS¥MDA7.2¥Manuals¥MDA_Manual_R7.2_JP.pdf

**その他のお問い合わせについて :**

その他の FAQ については、次のサイトでご確認ください。www.etas.com/ja/faq

ご不明な点がある場合は、当社のサポートセンターへお気軽にお問い合わせください。

こちらからあらゆる情報をご確認いただけます。<http://www.etas.com/ja/hotlines.php>

本情報（以下「FAQ」）の提供において、当社は（明示的または黙示的を問わず）その完全性または正確性に関する責任、金銭的保証、または義務を一切負いません。ETASは、故意の損害が生じた場合を除き、本情報の使用に起因する、または起因した可能性のある損失および損害（間接的損害、特別損害または派生的損害を含む）について責任を負わないものとして扱います。